



家庭で学カアッププロジェクト

令和3（2021）年5月
栃木県教育委員会

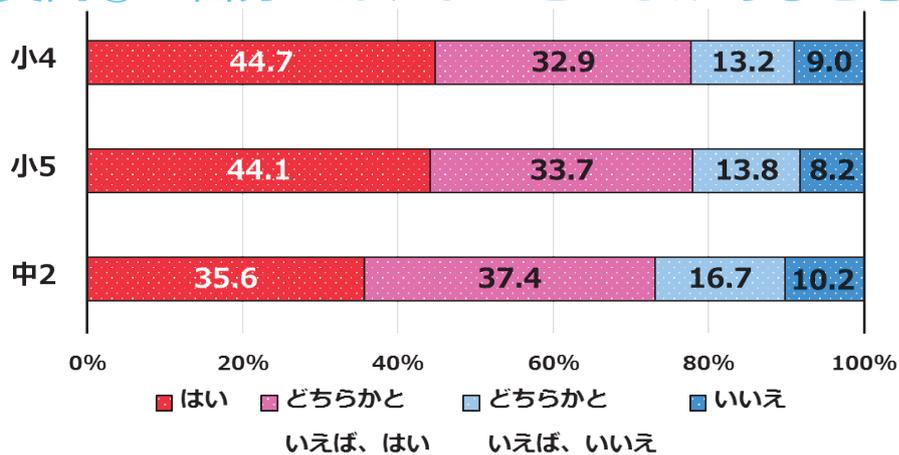
県教育委員会では、「とちぎっ子学習状況調査」（教科に関する調査と質問紙調査）を要として、学カアッププロジェクトを実施しています。ここでは、これまでの調査結果を分析して見えてきた、効果的な保護者の働きかけについて紹介します。

子供のよさに気づき、ほめていますか？



とちぎっ子学習状況調査質問紙調査より

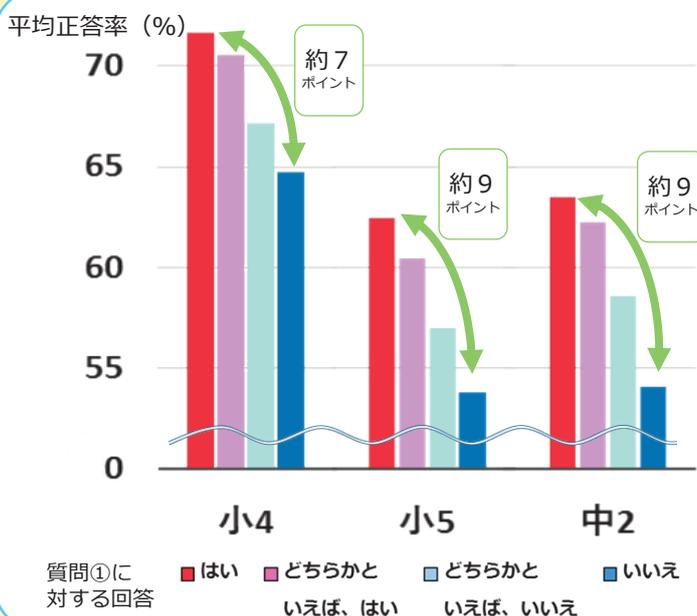
質問①：自分には、よいところがあると思いますか？



どの学年も、約80%の子供が、自分にはよいところがあると回答していますね。



そうですね。実は、この質問①に対する回答と教科の平均正答率には、下のグラフのような関係が見られました。



左のグラフから、例えば小4では、質問①に対して「はい」と回答している児童の平均正答率は70%を超えており、「いいえ」と回答した児童の平均正答率とは約7ポイントの差があることがわかります。

調査結果から把握できることは学力の一部ではありますが、「自分にはよいところがある」と思っている児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向があると言えます。

※ 小4、小5は国語・算数・理科の3教科、中2は国語・社会・数学・理科・英語の5教科をまとめた平均正答率と質問紙調査の回答結果の関係を示しています。

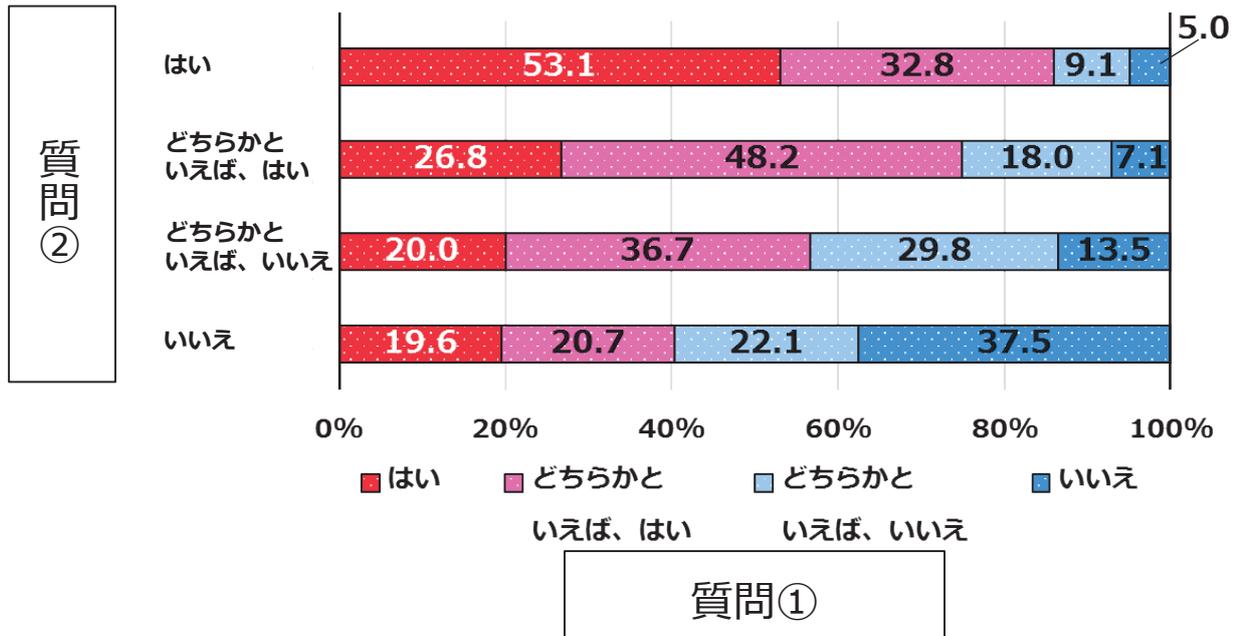


子供が自分のよさに気付くことは、大切ですね。そのために、家庭ではどのような働きかけの工夫ができるのでしょうか？

質問紙調査には、下の質問②のような項目もあります。
表面の質問①の結果と合わせて分析すると、次のようなことが見えてきました。

とちぎっ子学習状況調査質問紙調査（中2対象）より

質問②：家の人は、あなたがほめてもらいたいときにほめてくれますか？



上のグラフから、質問②「家の人は、あなたがほめてもらいたいときにほめてくれますか？」に対して「はい」と回答した生徒の約53%が、質問①に対して自分にはよいところがあると回答しています。

子供が、自分のよさを感じることができるようになるためには、ほめることが大切だということですね。

ほめる際は、子供の気持ちを考えることを大切にしたいですね。ほめてもらいたいと思っているタイミングをみて声をかけるなど、自分のよさに気付くことができるように工夫しましょう。



質問紙調査には、本リーフレットで取り上げた質問以外にも、学ぶ意欲や学校での様子、家庭学習に関する質問項目などがあります。

お子様と学習について話し合う際に、教科に関する調査結果と併せて、質問紙調査の結果も参考にしてみてください。